

# あまんじゅこのいたずらさがし

「大人」の子孫らしいあまんじゅこは、いつもいたずらをしては喜んでいました。

## 【いたずらその1】

中区の真ん中あたりに太子山と丘山というあわんをふせたような形の2つの山が並んであります。

ある日、あまんじゅこはこの2つの山を動かして、里の人たちを驚かそうと思いました。

そこで、2つの山を天秤のようにつりあげてうごかそうと長い石の棒をさがしてきました。その石を天秤棒にしてつりあげようとすると、ボキンと折れてしましました。



丘山と太子山（中区）

時が流れて、村の人たちが村の中を流れる川を掃除していたらその折れた石の一部を見つけたと伝えられています。それが、奥中に残っている「長石」のいわれです。



あまんじゅこの長石（中区奥中）

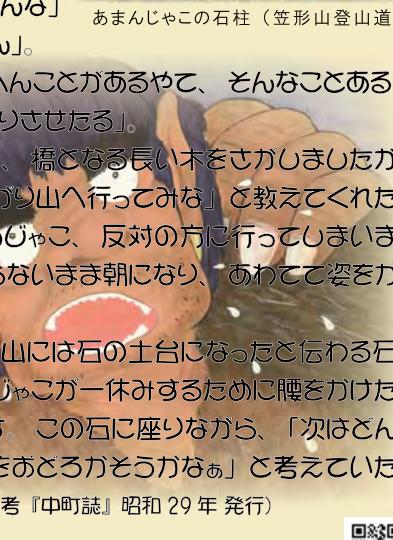
## 【いたずらその2】

ある日の夕方、里の子どもたちが夕焼けの空を見ながら「妙見山と笠形山に虹のような橋がかかるたらきれいやろなあ」と話しているのを耳にしました。「あまんじゅこったら、大きくて力持ちやから橋がかけられるかもじれへんな」「なんぼ大きいすごい力持ち言うても、あがんあがん」。

それを聞いたあまんじゅこは「何やて、わいにつけへんことあるやて、そんなことあるかい」、「見られ、一晩のうちに橋をつくって、びっくりさせたる」。

暗い中、石をつがって土台をつくりました。そして、橋となる長い木をさがしましたが見つかりません。そこへふくろうがやってきて「どんがら山へ行ってみな」と教えてくれたのです。そこはあまんじゅこ、反対の方に行ってしまひました。どうとう見つからないまま朝になり、あわてて姿をかくしてしまひました。

橋をつくっていた笠形山には石の土台になったと伝わる石柱があります。あまんじゅこが一休みするために腰をかけたという石も残っています。この石に座りながら、「次はどんないたずらをして里人をあざろかうがなあ」と考えていたあまんじゅこの腰掛石（中区曾我井）がもじれませんね。（参考『中町誌』昭和29年発行）



# OH!TAKA・DA 風土記

昔、大人（おおひと）がいました。

この大人が、南の海から北の海へ、さらに東に巡回したときに、この土地にやってきて言いました。

「ほかの土地は低かったので頭がいつも天につかえるから、身をかがめて歩いたけれど、この土地は天が高いので、体を伸ばして歩ける。高いなあー」。

そこで、この地を託賀郡（たかのこおり）というようになりました。また、大人の踏んだ足跡は、たくさんの沼となりました。

\*『播磨国風土記』託賀郡条より（現代語訳）

託賀郡＝多可郡

## ふ　ご　き 風土記とは



古代播磨国と託賀郡

元明天皇の時代、和銅6年（713）5月2日に、諸国に向けてある命令が発せられました。

「郡郷（里）にふき名前を付けよ。鉱物・植物など郡内の特産品や土地の肥沃さ、地名の由来や古考の伝える旧聞・異事を（朝廷に）報告せよ」という命令です。諸国から提出された報告書（解）は、後に『風土記』と呼ばれるようになります。

現在、その写本が伝えられ、1300年前の姿を知ることができる国は、常陸国・出雲国・肥前国・豊後国、そして播磨国のわずか5力国だけです（後の書物に引用された「逸文」が残るのは20数力国ほど）。

その頃の播磨国には12の郡（ごおり）がありましたが、その内10郡の記述が残っています。その一つに託賀郡（現在の多可町～西脇市周辺）があります。

### 荒田村（加美区南部～中区北西部）

あるとき、この地にいらっしゃる道主日女命（みちぬひひのみこと）という神様が、父親がないのに子どもをあ産みになりました。

そこで、父親が誰かを見分けたため、儀式（「盟酒」：うけいざけ）を行うことになりました。儀式に使うお酒をつくるために、七町の田を作ったところ、七日七夜のうちに稻が実り、お酒ができました。多くの神様を集めて、生れた子どもに父親である神様にお酒を捧げると、天目一命（あまのまひとつのみこと）に捧げたので、天目一命が父親だとわかりました。

後に、酒米をつくった田は荒れてしまったので、荒田村と名付けられました。



東から「荒田村」方面を望む

### 荒田神社（加美区的場）

『播磨国風土記』にはこの地域の神社名は出てきませんが、「荒田」という地名を冠し、播磨二宮とも呼ばれる荒田神社が『播磨国風土記』にゆかりの深い神社だとされています。



荒田神社

坂上田村麻呂の崇敬を受けたという伝承をはじめ、「式内社」としても早くから歴史に登場し、この神社に近接する丘の上には天目一命を祀る「天目一神社」も鎮座しています。

現在のご祭神は、少彦名命（すくなひこなのみこと）、木花開姫命（このはなさくやひめのみこと）、素戔鳴尊（すさのおのみこと）の三神ですが、古くは道主日女命と天目一命の夫婦神が祀られていたとも考えられています。

### 花波山（八千代区 脇田山）

花波山は、近江の国の花波之神（はななみのかみ）がこの山にいらしたので花波山と名付けられました。  
※「花波山」は託賀郡法太里（ほうだのさと）に記載されており、八千代区中野間には「花ノ宮」という地名が残っています。また、丹波と播磨の国境として記されている「斐坂」（みがさか）は、西脇市と加西市の境の「二ヶ坂」が遷称地とされています。



花波山

## 託賀郡 賀眉里

たかのこおり

みのさと



### 賀眉の里

土地の肥沃さは下の上です。  
この里は杉原川の川上にあるので、「賀眉里」と名付けました。

### 大海山（中区 妙見山）

大海（あおみ）という名がついたわけは、昔、明石郡大海の里の人々がやってきて、この山のふもとに住んでいたので、大海山といいます。松が生えています。



大海山（妙見山）と東山古墳群

### 天目一神社（加美区的場）

荒田神社の西北の丘の上にある小社。

「めひとさん」と呼ばれて親しまれており、4月にはお祭りが行われます。



天目一神社

天目一命は、町内では他に、山寄上（やまよりがみ）・青玉神社、鳥羽（とりは）・青玉神社、清水（きよみず）・西宮神社で主祭神として、鍛冶屋（かじや）・大歳金比羅神社、間子（まこ）・加都良神社では摂社として祀られています。